

2025年度学内バリア調査結果

～車いすユーザーの「(アクセスできること)アクセシビリティ」と「(使いやすさ)ユーザビリティ」の視点から～

障害学生支援室

2025年度調査のコンセプト

- この調査は2024年度に続き、2年目となる取組である。
- 昨年度は、車椅子ユーザーが本学を利用するという設定で、学内の各建物（室内の詳細な調査は除く。）及び外通路等、キャンパス全体を対象として網羅的な調査を実施した。
- 今年度は前回と同様の設定で、学内でも特に公共性の高い施設に焦点を当て、各部屋の内部も含めて可能な限り詳細な調査を行うこととした。

今回調査を行った箇所

悠々館 ・ 情報館 ・ 本館（事務局内の窓口など） ・ 明窓館
及び グラウンド校舎※ スクールバス（バス乗り場を含む。）※ ※今回新たに加えた調査箇所

調査方法等の概要

【調査日】 2025年10月18日(土) 及び 25日(土)

【調査方法】

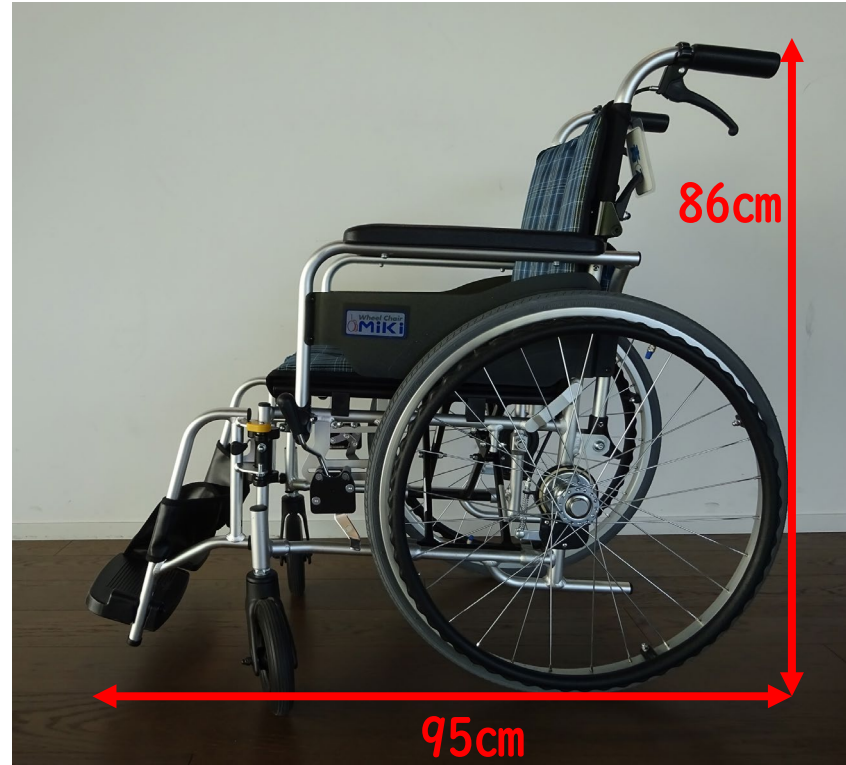
- ・学生10名がわかれて、3つのグループを編成した。車いすを使用した経験のある学生は0名。
- ・グループに1台ずつ車椅子を用意し、調査箇所を一巡した。
- ・車椅子ユーザーと介助者、それぞれの立場からの気づきを記録した。
- ・各グループでポスターを作成し、調査結果を全体で共有した。
- ・対応の優先順位が高いと思われる箇所や改善に向けたアイデアを話し合った。



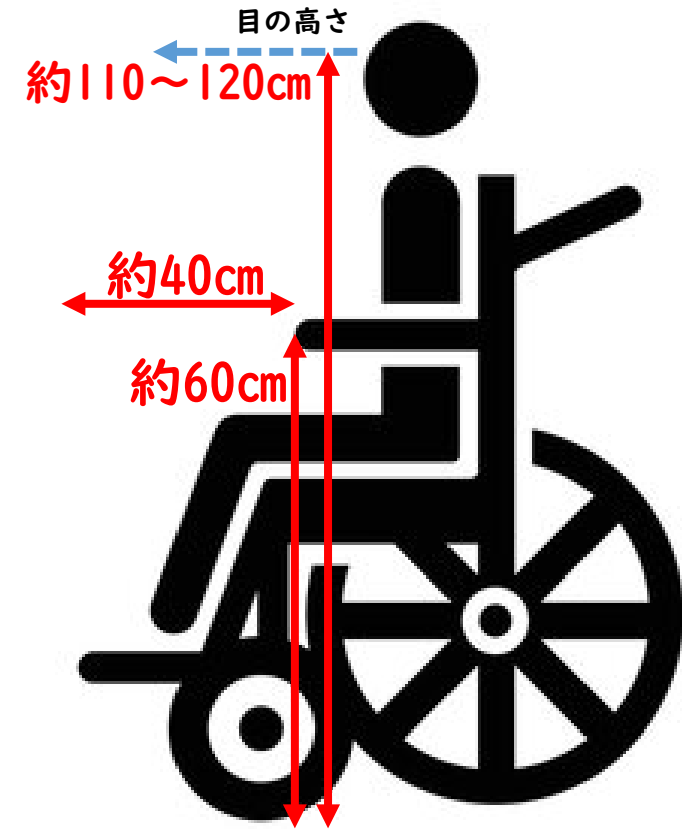
調査に使用した車椅子



人が腰掛けた場合、両肘の張り出し等も考慮し、+10cm程度の横幅が加わる。



車椅子の規格は、日本工業規格（JIS）により、全幅70cm以下、全長と全高は120cm以下であるべきと規定されている。一般的な出入口や通路において、車椅子が通りやすい最低幅は75cmとされている。公共施設では最低限80cm以上の幅を確保することが求められている。バリアフリー設計を重視する場合は、通路や出入口の幅は120cm以上が望ましい。



調査結果 ①悠々館



あくまでも調査日当日における、それぞれの場所の様子をもとに考察や計測をしたものです。

①-1

施設名称	悠々館1階
問題となる設備	建物の出入口扉（流溪館側・遠友館側の2箇所）

問題点

介助ありの場合

・扉の重量が重く、開閉しづらい。
 ・扉にはストッパー機能が付いているが、固定用のブロックも置かれていた。ブロックは扉の重みを支えるには十分なものとはいえず、あまり意味をなさないように感じた。

介助なしの場合

・扉が開放されている時は安全に通れるが、車椅子に乗ったまま扉を開けて出入りすることはできない。

学生から出た改善のアイデア

- ・ブロックを撤去する。
- ・出入りの際に困っている人がいたら周囲の人がサポートする。

現地の写真



←流溪館側



←遠友館側↓



①-2

施設名称	悠々館1階
問題となる設備	食堂出入口開き扉

問題点

介助ありの場合

- ・かなり重たい扉だが、扉自体にストッパー機能はない。
- ・介助者は、入口に置いてあるブロックで扉を固定しなければならない。
- ・この扉は閉まっていることも多いため、出入りするたびにブロックのセッティングと片付けを行う必要がある。

介助なしの場合

- ・一人で扉を開閉しながら車椅子を操作して入館することはできない。
- ・車椅子を操作しつつ、ストッパーのブロックをセットするのは危険である。

学生から出た改善のアイデア

- ・自動扉への変更を検討する。
- ・開き扉の場合、軽量でストッパー機能のある材料を使う。
- ・出入りの際に困っている人がいたら周囲の人や食堂スタッフがサポートする。

現地の写真



①-3

施設名称	悠々館1階 食堂
問題となる設備	注文・受け取りのスペース

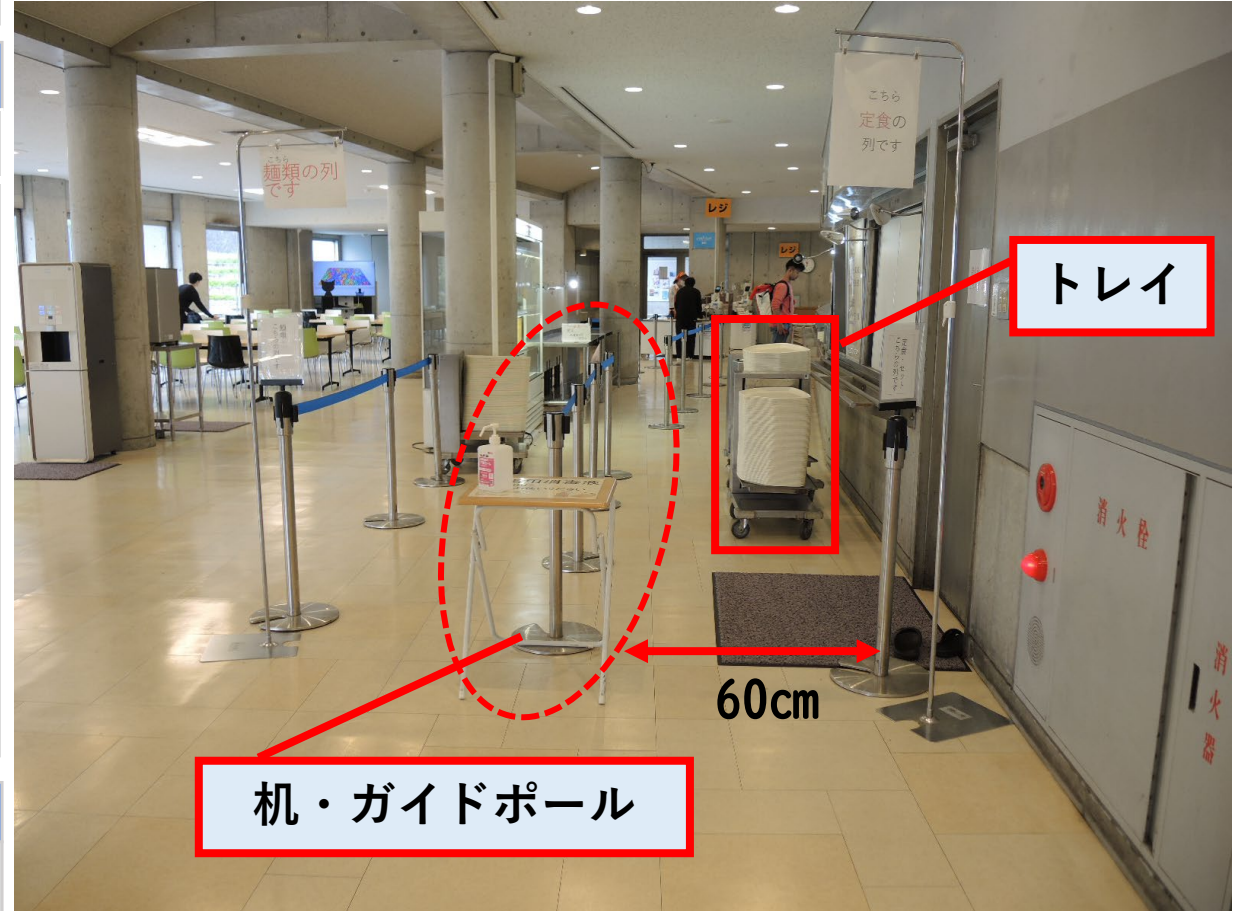
問題点

介助ありの場合	介助なしの場合
<ul style="list-style-type: none"> ・カウンター進入口が幅60cmであり、通行幅がぎりぎりである。 ・トレイ置き場や机、ガイドポール等が通行の支障になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンター進入口が幅60cmであり、車いすでの通行はぎりぎりである。 ・トレイ置き場や机、ガイドポール等が通行の支障になる。 ・セルフの副菜・惣菜コーナーにある商品が棚の奥にあった場合、手が届かない。 ・食事を受け取ってから座席につくまでの持ち運びについてはフォローが必要である。

学生から出た改善のアイデア

- ・机やポールの撤去（移動）を検討する。
- ・ポールのかわりに誘導するための動線（進路）を床面に表示する。

現地の写真



①-4

施設名称	悠々館2階 みんなのトイレ
問題となる設備	設置設備

問題点

介助ありの場合

・1階トイレとは異なり、おむつ台がないため、介助用品等を床の上に置くしかない。

介助なしの場合

・荷物等の置き場がないため、荷物を床に置いたり取ったりする動作が身体的な負担となる。

学生から出た改善のアイデア

・おむつ台の設置について検討する。

現地の写真



写真 2階みんなのトイレ
(おむつ台なし)



参考 1階みんなのトイレ
(おむつ台あり)

①-5

施設名称	悠々館2階 画箋堂
問題となる設備	店内全体

問題点

介助ありの場合

・車椅子でぎりぎり通行できる程度の通路幅は確保されていたが、両側に所狭しと商品が積み上げられているので接触する恐れがあり、操作には慎重さを要する。

介助なしの場合

・店内を車椅子に乗ったまま一人で移動することは難しい。
 ・各商品のラベルが車いすからでも見やすかったが、手の届かない位置にある商品は取れないので、店員や他の人に依頼する必要がある。

学生から出た改善のアイデア

- ・介助やサポートを必要とする人に向けた表示を掲示する。
- ・商品陳列に危険な箇所がないかを再点検する。

現地の写真



①-6

施設名称	悠々館2階 ファミリーマート
問題となる設備	店内全体

問題点

介助ありの場合

- ・高いところや奥の位置にある商品を代わりに取る、タッチパネルを操作する等のフォローが必要である。
- ・狭い動線（コピー機・ATM等）では、車椅子でUターンをすることができないため、バックする際には後方に気をつけ介助する必要がある。

介助なしの場合

- ・店内の通路は車椅子移動に十分な幅が確保されているが、手の届かない位置にある商品は取れないので、店員や他の人に依頼する必要がある。
- ・入口すぐの右側奥にあるコピー機はタッチパネルの液晶が蛍光灯に反射するため、車いすに座った状態で操作することが困難だった。

学生から出た改善のアイデア

- ・介助やサポートを必要とする人に向けた表示を掲示する。

現地の写真



調査結果 ②情報館



あくまでも調査日当日における、それぞれの場所の様子をもとに考察や計測をしたものです。

②-1

施設名称	情報館 2階 出入口
問題となる設備	建物の出入口

問題点

介助ありの場合

・内側及び外側のいずれの扉もガラス製でかなり重い上、ストッパー機能がないため、ゴム製のストッパーか手で一旦扉を固定してから、車椅子を操作する必要がある。

介助なしの場合

・車椅子を操作しながら自力で扉を開けて入館することはできない。

学生から出た改善のアイデア

- ・自動扉への変更を検討する。
- ・開き戸の場合は、軽量でストッパー機能のある材料を使う。
- ・出入口のインターフォンを活用して介助の依頼をする。そのことが書かれた表示もあるとなお良い。

現地の写真



②-2

施設名称	情報館 2階 受付カウンター
問題となる設備	通路の幅

問題点

介助ありの場合

- ・特になし

介助なしの場合

- ・受付カウンターと掲示物の間の通路がやや狭かった（80cm程度）ので、自力だと通行しづらい。

学生から出た改善のアイデア

- ・配置やレイアウトの工夫により動線を確保する。

現地の写真



②-3

施設名称	情報館1階 雑誌コーナー
問題となる設備	通路

問題点

介助ありの場合

- ・特になし

介助なしの場合

- ・閲覧用に置かれている椅子が車椅子ユーザーにとっては通行の妨げになっていた。
- ・手の届かない位置にある雑誌は取れない。

学生から出た改善のアイデア

- ・介助やサポートを必要とする人に向けた表示を掲示する。

現地の写真



②-4

施設名称	情報館1階 視聴コーナー
問題となる設備	施設内部

問題点

介助ありの場合

- ・特になし

介助なしの場合

- ・閲覧用ソファが常設（1脚又は2脚）されているため、車椅子ユーザーがそのまま入ることはできない。
- ・機材やリモコンに手が届かない場合、視聴のための操作をすることが難しい。

学生から出た改善のアイデア

- ・介助やサポートを必要とする人に向けた表示を掲示する。

現地の写真



②-5

施設名称	情報館地下1階 電子書架ブース
問題となる設備	ブース内の通路

問題点

介助ありの場合

- ・特になし

介助なしの場合

- ・蔵書の分類表示が高い位置にあるため、車椅子からは確認しづらい。
- ・掲示板が通路部分に一部せりだしており、通行の支障になる可能性がある。

学生から出た改善のアイデア

- ・当該掲示板は他の場所での活用を検討する。
- ・掲示や表示方法を工夫する。

現地の写真



高い位置にある表示は車いすから見づらい。

通路部分にせり出している掲示板

②-6

施設名称	情報館地下1階 電子書架ブース
問題となる設備	書架の通路

問題点

介助ありの場合

- ・特になし

介助なしの場合

- ・一部、60cm幅の通路があり、そこは車椅子では入れない。
- ・自力で車椅子を操作していると周りの壁や棚と接触してしまう。
- ・手の届かない位置にある書籍は取れない。
- ・蔵書の分類表示が高い位置にあるため、車椅子からは確認しづらい。

学生から出た改善のアイデア

- ・介助やサポートを必要とする人に向けた表示を掲示する。

現地の写真



②-7

施設名称	情報館 2階 貸出用端末
問題となる設備	検索ブース

問題点

介助ありの場合

- ・特になし

介助なしの場合

- ・車椅子に座った状態だと机の奥行きが狭いために膝が当たってしまい、端末に手が届きづらい。

学生から出た改善のアイデア

- ・机を低くする。
- ・同じ機能のタブレット端末等を整備する。

現地の写真



②-8

施設名称	情報館各階 OPACカウンター
問題となる設備	ブース

問題点

介助ありの場合

- ・特になし

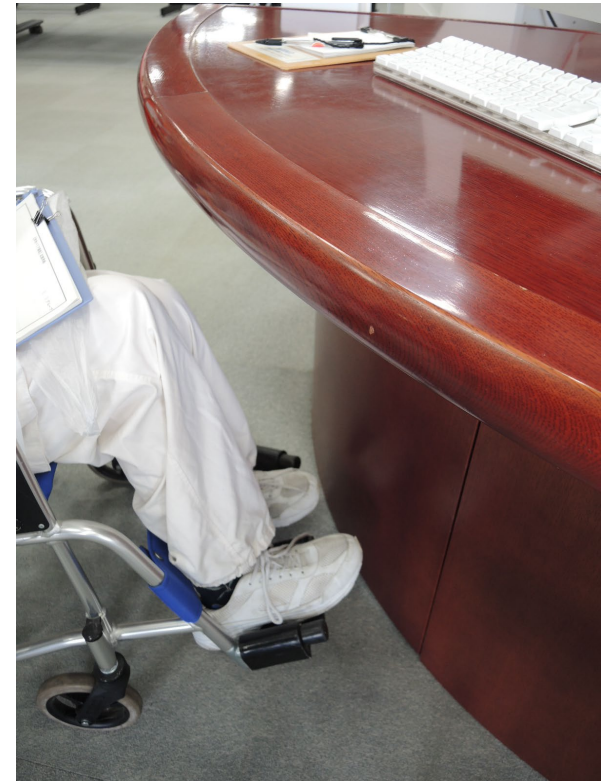
介助なしの場合

- ・1階と3階のカウンターは床からの高さが95cm。車椅子に腰かけた状態で端末から本を予約したり検索したりするのはかなり難しい。
- ・2階のカウンター下部分の奥行きが狭いため車椅子で奥まで入れない。車椅子を横向きにすればOK。

学生から出た改善のアイデア

- ・机を低くする。
- ・同じ機能のタブレット端末等を整備する。

現地の写真



②-9

施設名称	情報館3階 閲覧室
問題となる設備	文庫・新書コーナー

問題点

介助ありの場合

- ・特になし

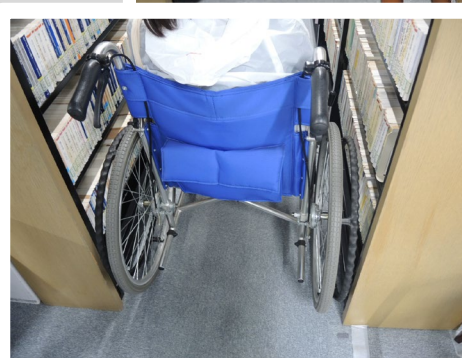
介助なしの場合

- ・通路幅が73cmと広くないため、車椅子ユーザーが一人で移動することは難しい。
- ・Uターンができないので、そのままの向きでバックする必要がある。
- ・手の届かない位置にある書籍は取れない。

学生から出た改善のアイデア

- ・介助やサポートを必要とする人に向けた表示を掲示する。

現地の写真



②-10

施設名称	情報館3階 セミナー室
問題となる設備	室内

問題点

介助ありの場合

・現在のレイアウトのまま教室内の移動が必要な場合、机椅子を左右に移動させながら通路を確保する必要がある。

介助なしの場合

・現在のレイアウトのまま教室内の移動が必要な場合、机と机の間を通過して移動することはできない。

学生から出た改善のアイデア

・車いすユーザーが利用する際には、レイアウトの工夫等によりアクセシビリティを確保する。

現地の写真



②-11

施設名称	情報館3階 TIC
問題となる設備	室内

問題点

介助ありの場合

・高さ1.4cmのコンセントカバーが段差となり、一気に通行しようとするすると揺れが生じる。

介助なしの場合

・高さ1.4cmのコンセントカバーが段差となり、自力で乗り越えようとするすると車輪が取られる感覚があり、通行しづらい。

学生から出た改善のアイデア

・介助する場合は、一旦止まってから声をかけ、ゆっくり進む。

現地の写真



調査結果 ③グラウンド校舎



あくまでも調査日当日における、それぞれの場所の様子をもとに考察や計測をしたものです。

③-1

施設名称	グラウンド校舎1階
問題となる設備	正面及びグラウンド側スロープ

問題点

介助ありの場合

・路面が濡れていると滑る可能性がある。踊り場には水溜りもできていた。

介助なしの場合

・路面が濡れていると滑る可能性がある。

学生から出た改善のアイデア

・路面が滑りやすい場合、滑り止めテープや防滑施工等の対応を検討する。
・他の建物にもないので難しいかもしれないが、スロープの上にも屋根があれば良いと感じた。

現地の写真



③-2

施設名称	グラウンド校舎1階
問題となる設備	鉄製の手すり

問題点

介助ありの場合	介助なしの場合
<ul style="list-style-type: none">・特になし	<ul style="list-style-type: none">・校舎沿いに設けられた通路には高さ100cm強の手すりが設けられている。フェンスや網等はないので、車椅子の操作を誤った場合、脱輪して通路下に落下する危険性がある（通路下は人工芝及び敷石が施工されておりクッションにはなる）。

学生から出た改善のアイデア

・危険性が高いと判断される場合には、落下防止用のネットやフェンスなどの施工について検討する。

現地の写真



100cm強

横幅は250cm程度



通路幅は180cmなので
Uターンも可能

③-3

施設名称	グラウンド校舎1階
問題となる設備	各教室の室内

問題点

介助ありの場合

・現在のレイアウトのまま教室内の移動が必要な場合、机椅子を左右に移動させながら通路を確保する必要がある。

介助なしの場合

・現在のレイアウトのまま教室内の移動が必要な場合、机と机の間を通過して移動することは難しい。

学生から出た改善のアイデア

・受講人数が少ない場合は、使わない机を折りたたむ等して、車いす利用者の受講スペースを確保する。

現地の写真



③-4

施設名称	グラウンド校舎1階
問題となる設備	教室・トイレの出入口 Lスロープ（木製）及び引き戸のレール

問題点

介助ありの場合

- ・ 部屋の出入口にLスロープ（木製）が施工されているが勾配が急であり、レールの高さもあるため車輪に引っ掛かる。
- ・ 介助者が車椅子を押しても入室するのに苦労した。

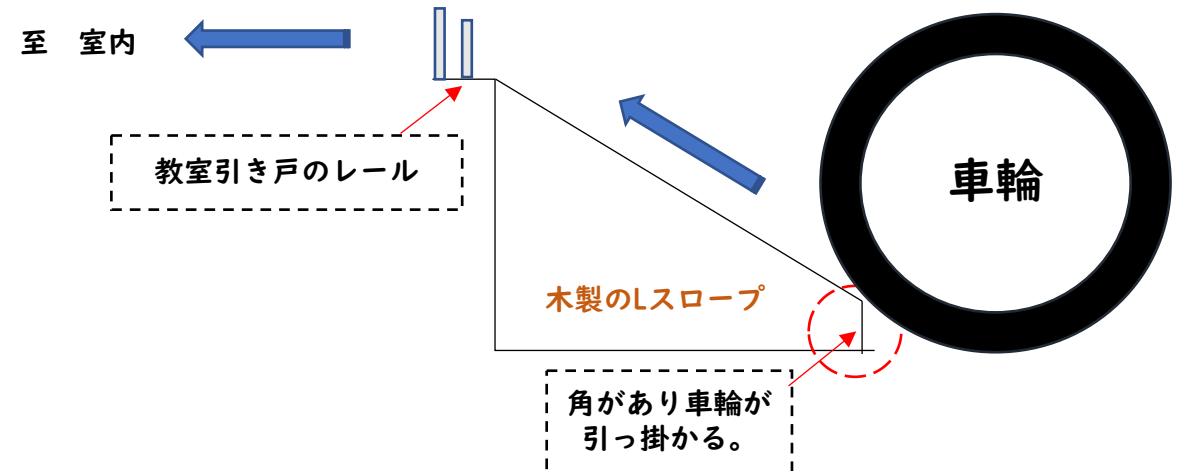
介助なしの場合

- ・ Lスロープ（木製）の勾配が急であり、レールの高さもあるため車輪に引っ掛かる。
- ・ 車椅子ユーザーが一人で入ることは難しい。

学生から出た改善のアイデア

- ・ Lスロープをなだらかな形状のものに交換する。

現地の写真



③-5

施設名称	グラウンド校舎 1階⇔2階
問題となる設備	移動手段がない

問題点

介助ありの場合

・介助者がいても車椅子利用者を2階に連れていくことはできない。

介助なしの場合

・1階の教室より広くて使いやすいような教室であるにもかかわらず、階段しかないため2階にアクセスすることができない。

学生から出た改善のアイデア

・アクセス自体ができないため、代替手段の確保が必要である。

【例】

- ・可能な限り1階教室から参加できるように、教室配当の調整をする。
- ・どうしても2階で行う必要がある場合は、その授業やイベントをオンラインで配信する等して参加を保障する。

現地の写真



④-1

施設名称	明窓館1階 グローバルカフェ南出入口
問題となる設備	くつずりの段差

問題点

介助ありの場合

- ・特になし

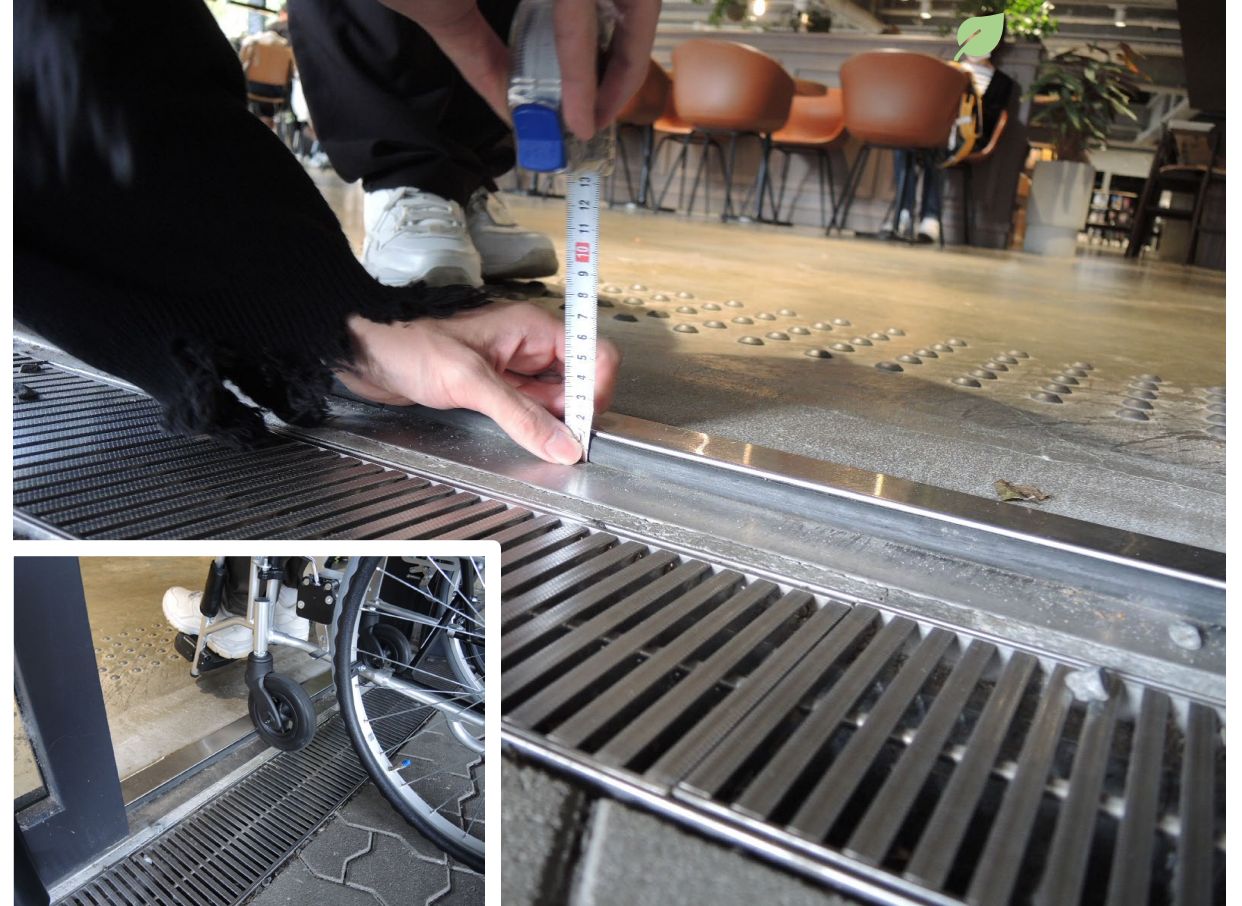
介助なしの場合

- ・開き扉のくつずり部分に、2cmの段差がある。車椅子ユーザーが一人で乗り越えることは難しい。

学生から出た改善のアイデア

- ・出入りの際に困っている人がいたら周囲の人やカフェスタッフがサポートする。

現地の写真



④-2

施設名称	明窓館1階 グローバルカフェ南出入口
問題となる設備	備品による動線の制限

問題点

介助ありの場合

- ・特になし

介助なしの場合

- ・扉を開けながら車椅子を操作せねばならないため、一人で出入りすることは不可能である。
- ・両開きの扉タイプ。ダストボックスや傘立て等の備品が置かれていたため、片側の扉しか使用できなかった。

学生から出た改善のアイデア

- ・出入りの際に困っている人がいたら周囲の人やカフェスタッフがサポートする。
- ・備品の配置を工夫し、車椅子の動線を確保する。

現地の写真



④-3

施設名称	明窓館1階 大ホール 車椅子席への動線
問題となる設備	グローバルカフェ南側 大ホール入口

問題点

介助ありの場合

- ・ここが車椅子席の進入口であることが分からない。
- ・ストッパーの代わりに固定用のブロックが置かれているが、扉の重みに耐えきれない。そのため、車椅子介助をしながら体を使って扉を押さえる必要がある。

介助なしの場合

- ・ここが車椅子席の進入口であることが分からない。
- ・扉は内側と外側の二段階で設けられている。かなりの重量がありストッパー機能もないため、車椅子を操作しながら一人で入ることはできない。

学生から出た改善のアイデア

- ・新しい表示を作成する。
- ・安全かつ実用的なストッパーと取り換える。

現地の写真



④-4

施設名称	明窓館1階 大ホール 車いす席
問題となる設備	位置

問題点

介助ありの場合

・車椅子スペースが明確に表示されておらず分かりづらい。

介助なしの場合

・車椅子スペースが明確に表示されておらず分かりづらい。
・大型スピーカーの前方に座席があるため、音楽のライブなど大音量の場合にはしんどさを感じてしまう人もいるかもしれない（障害のない人のように体調やTPOに応じた座席の選択肢がない）。

学生から出た改善のアイデア

- ・床面に「車椅子専用スペース」の表示を設ける。
- ・主催者が席まで誘導する等の配慮が必要である。
- ・車椅子席以外の場所での参加を希望された際の対応を検討する。

現地の写真



④-5

施設名称	明窓館1階 大ホール
問題となる設備	ステージ

問題点

介助ありの場合

・車椅子ユーザーが壇上に上がる手段がないため、介助者がいても何もできない。

介助なしの場合

・ステージに上がるための動線がないため、登壇することができない。

学生から出た改善のアイデア

・常設である必要はないが、必要に応じて仮設スロープの活用を検討する。

現地の写真



④-6

施設名称	明窓館1階 大ホール
問題となる設備	ホールの階段部分

問題点

介助ありの場合

- ・車椅子利用者が使用することはないが、客電暗転時にホール内の階段を視認することができないため、介助者や一般客がつまづいたり転倒したりする危険性が極めて高い。
- ・足元に誘導灯はあるものの、階段の段差が全く見えない。

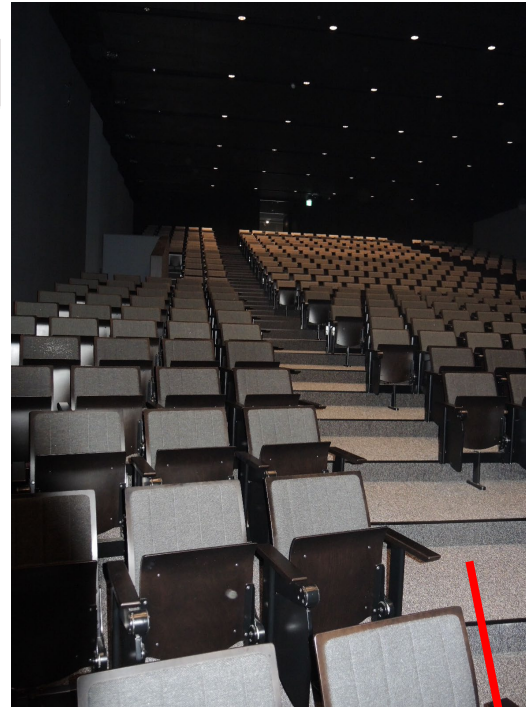
介助なしの場合

- ・特になし

学生から出た改善のアイデア

- ・階段ステップライトの施工を早急に検討する。

現地の写真



客電点灯時の様子



写真上：暗転時 後方扉開 写真下：暗転時：後方扉閉

④-7

施設名称	明窓館1階
問題となる設備	表示（トイレへの動線）

問題点

介助ありの場合

・みんなのトイレの場所が表示されておらず、介助者もどこに向かって良いのか分かりづらい。

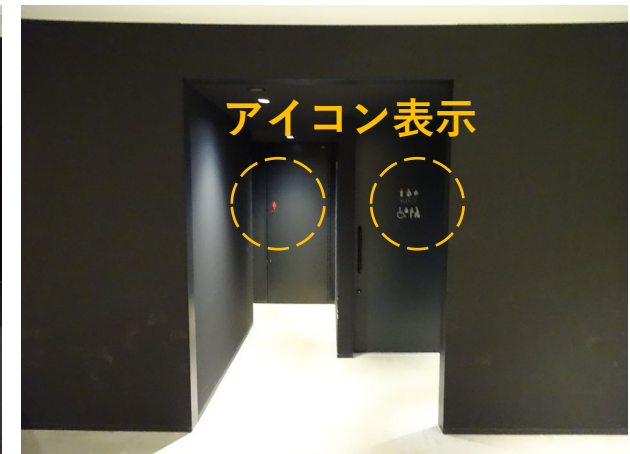
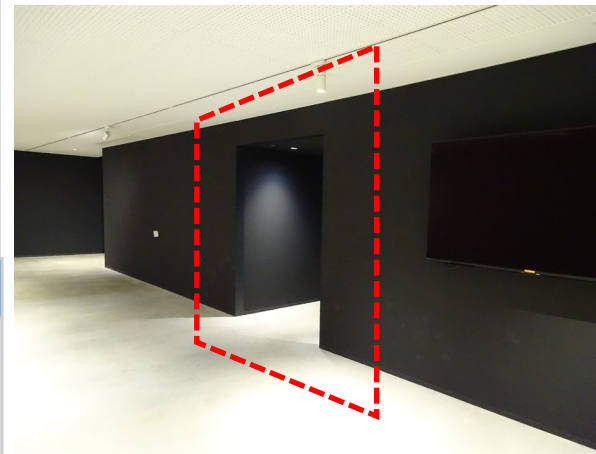
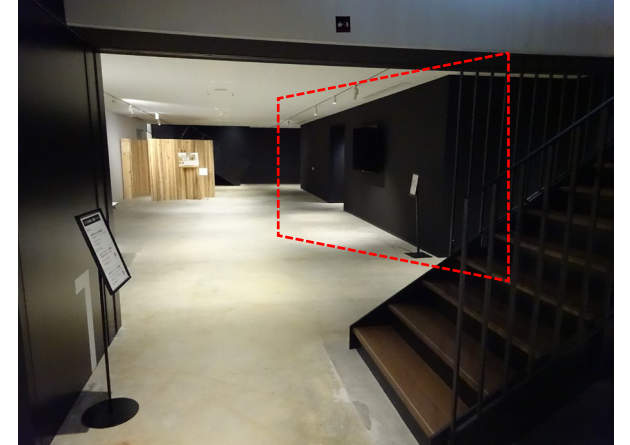
介助なしの場合

・大ホールやカフェを利用している時にトイレを使いたくなくても、みんなのトイレの表示や案内が一枚もないため、場所が分かりづらい。
 ・現在唯一、カフェカウンターに手書きの表示（男女トイレのみ）がある。表示された方向に進んでもトイレの場所が分からない。カットイングシートで施工されたアイコンも背景の黒に埋もれて確認しづらい（特に男子トイレ）。

学生から出た改善のアイデア

- ・分かりやすい表示を数か所に設置する。
- ・視認しやすい位置に看板表示を取り付ける。

現地の写真



④-8

施設名称	明窓館1階 みんなのトイレ
問題となる設備	出入口扉

問題点

介助ありの場合	介助なしの場合
<ul style="list-style-type: none">・特になし	<ul style="list-style-type: none">・引き戸のタイトゴムが一部溶けて粘着状になっているため、閉扉時に貼り付き、扉が開けづらくなっている。 (他の人が使っているのかと勘違いしてしまうほど、ぴっちりとかっついていて)

学生から出た改善のアイデア

- ・使いやすく長持ちするタイトゴムの素材について検討する。

現地の写真



④-9

施設名称	明窓館1階 グローバルカフェ
問題となる設備	カウンター

問題点

介助ありの場合

- ・特になし

介助なしの場合

- ・カウンターの高さが105cmあるので、カウンター上でメニューを確認することは難しい。カウンター越しのやり取りは可能である。
- ・品物を受け取ってから座席につくまでの持ち運びについてはフォローが必要である。

学生から出た改善のアイデア

- ・メニューやポップ等の配置や掲示方法を工夫する。
- ・品物を受け渡す際にはテーブルまで持って行く等の配慮をする。

現地の写真



④-10

施設名称	明窓館 2階 言語学習支援室
問題となる設備	カウンター

問題点

介助ありの場合

- ・特になし

介助なしの場合

- ・カウンターの高さが高いため、上にプリント等が置かれていても気づかない。
- ・カウンターの上で何かを書くことは難しい。

学生から出た改善のアイデア

- ・カウンターが使えない際の代替手段について検討する。
- ・そのために必要な物品の検討・購入など、環境整備を行う。
- ・配架方法を工夫する。

現地の写真



④-11

施設名称	明窓館2階 みんなのトイレ
問題となる設備	出入口周辺

問題点

介助ありの場合

・車椅子通行の妨げになっている物が出入口周辺にある場合は、それらを移動させてから介助をする必要がある。
(看板やインフォメーション commons のクッションベンチ等)

介助なしの場合

・車椅子通行の妨げになっている物が出入口周辺にある場合は、それらを移動させる必要がある。(看板やインフォメーション commons のクッションベンチ等)

学生から出た改善のアイデア

・看板の位置を調整する。

現地の写真



④-12

施設名称	明窓館2階 ホワイエ
問題となる設備	車いす用リフト

問題点

介助ありの場合

- ・特になし

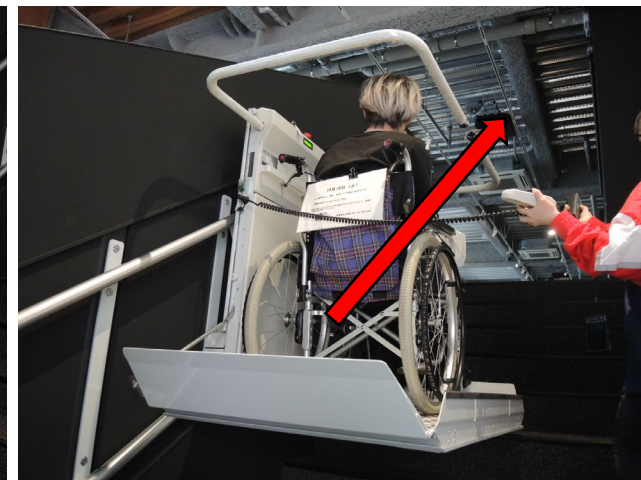
介助なしの場合

- ・使用したい時、どこに連絡をしたら良いのか分からない。
- ・このリフトの行先はホワイエ限定。ホール後方出入口から車椅子席には行けないため、車椅子席への行き方についても表示物等で知らせる必要がある。
- ・作動時には揺れが生じる。

学生から出た改善のアイデア

- ・必要な表示や掲示物を整える。
(使用したい際の連絡先・正しい乗り方や注意事項・大ホール入口への行き方など)
- ・アクセシビリティマップに記載する。
(「ホワイエ」の場所及び車いす用リフトの使用目的に関する注意事項を追記)

現地の写真



④-13

施設名称	明窓館3階
問題となる設備	ディスカッションスペース扉

問題点

介助ありの場合	介助なしの場合
<ul style="list-style-type: none">・特になし	<ul style="list-style-type: none">・全ての教室が鉄製の扉でありかなりの重量があるため、車椅子ユーザーが自力で入室することは難しい。

学生から出た改善のアイデア

- ・出入りの際に困っている人がいたら周囲の学生や教職員がサポートする。

現地の写真



④-14

施設名称	明窓館3階
問題となる設備	ディスカッションスペース1~4

問題点

介助ありの場合

・現在のレイアウトのまま教室内の移動が必要な場合、机椅子を左右に移動させながら通路を確保する必要がある。

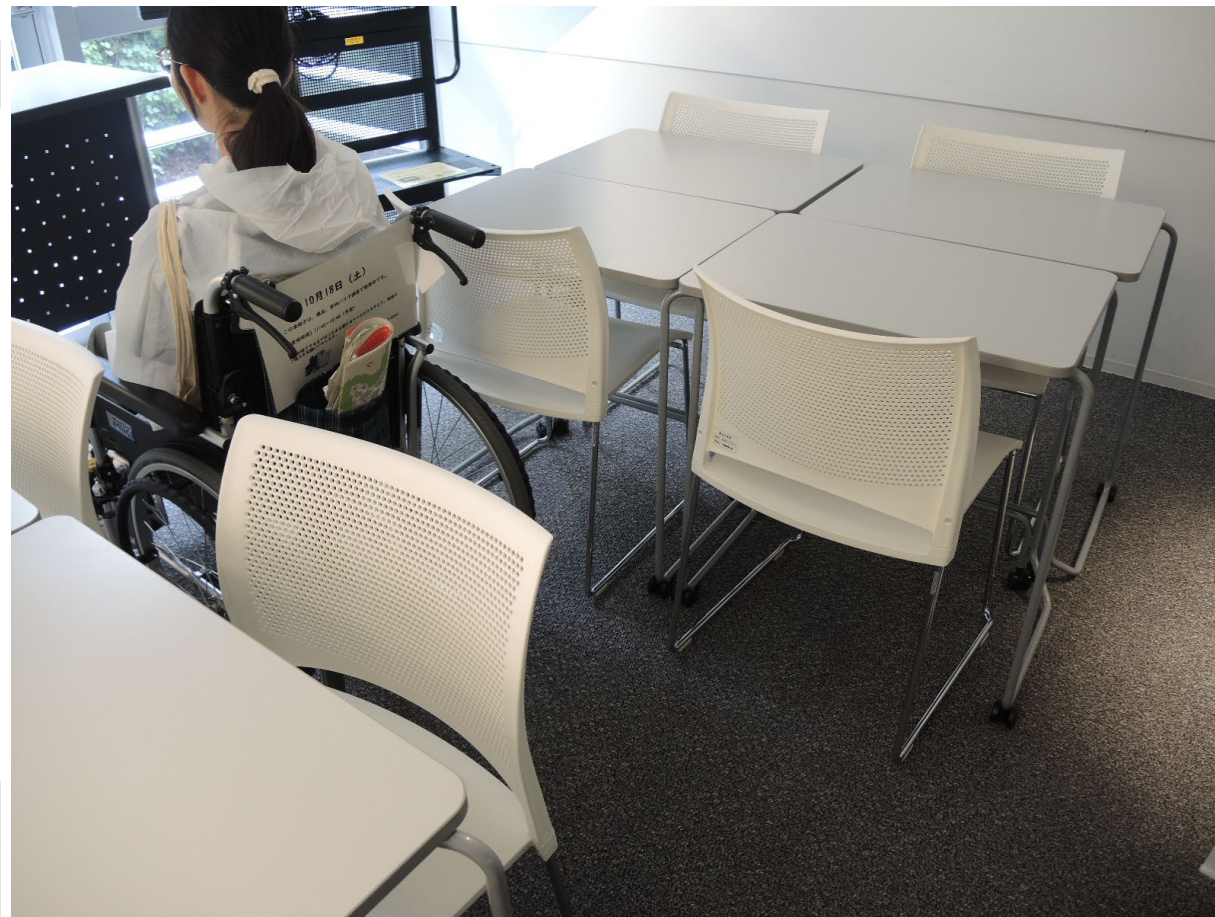
介助なしの場合

・現在のレイアウトのまま教室内の移動が必要な場合、机と机の間を通過して移動することは難しい。

学生から出た改善のアイデア

・使用しない机を一時的に教室外に出したり、レイアウトを工夫したりすることにより、車椅子ユーザーの受講スペースを確保する。

現地の写真



④-15

施設名称	明窓館4階
問題となる設備	ラーニングコモンズ

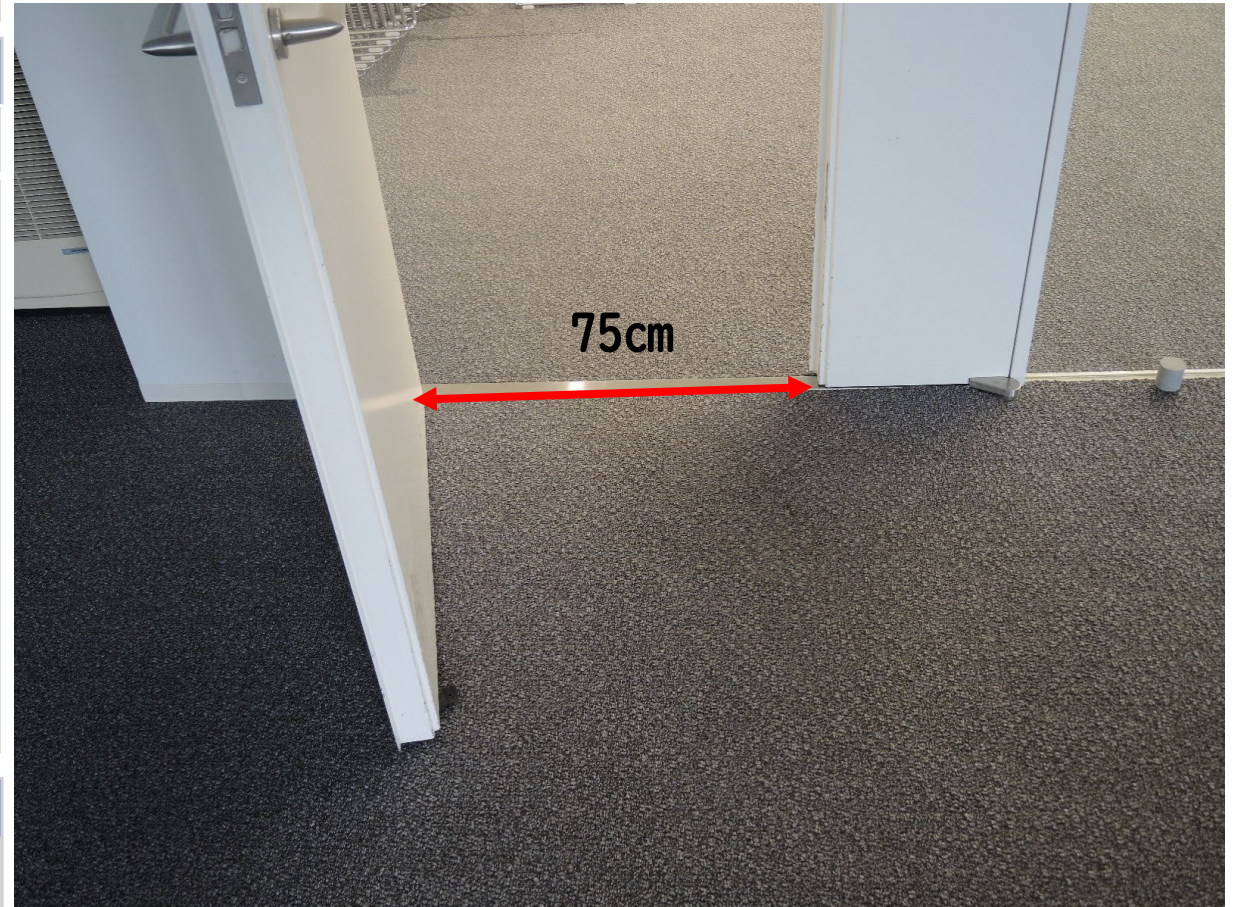
問題点

介助ありの場合	介助なしの場合
<ul style="list-style-type: none">・特になし	<ul style="list-style-type: none">・鉄製の両面開き扉が設けられている。扉を両面とも開放すると110cmとなるが片面だけだと75cmなので、通りづらい場合がある。

学生から出た改善のアイデア

- ・出入りしづらい場合は、扉の両面を開放する。
- ・必要に応じて、周囲の学生や教職員がサポートする。

現地の写真



④-16

施設名称	明窓館 4階
問題となる設備	みんなのトイレ

問題点

介助ありの場合

・みんなのトイレの場所が表示されておらず、介助者もどこに向かって良いのか分かりづらい。

介助なしの場合

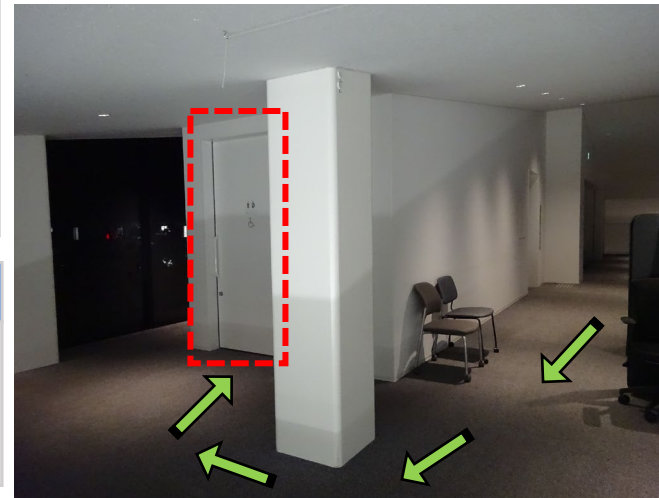
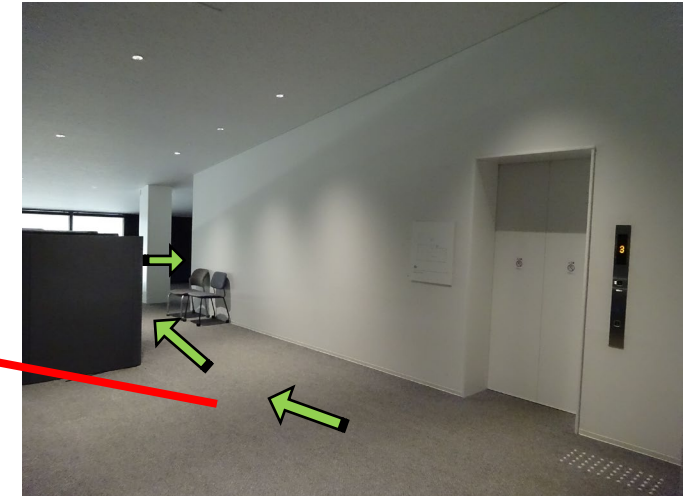
・みんなのトイレの表示や案内が一枚もないため、場所が分かりづらい。

学生から出た改善のアイデア

・分かりやすい表示を数か所に取り付ける。

現地の写真

エレベーターからみんなのトイレまでの動線



調査結果 ⑤本館



あくまでも調査日当日における、それぞれの場所の様子をもとに考察や計測をしたものです。

⑤-1

施設名称	本館1階 エントランス
問題となる設備	グレーチング

問題点

介助ありの場合

- ・特になし

介助なしの場合

- ・エントランス扉の手前に数か所の側溝やグレーチングがあるので、天候状況等によっては滑らないように注意する必要がある。

学生から出た改善のアイデア

- ・雨天時の現地の状況を再確認し、滑り具合をチェックする。
- ・滑りやすい場合には対応を検討する。

現地の写真



⑤-2

施設名称	本館1階 ⇄ 対峰館 ⇄ 自在館
問題となる設備	通路・階段

問題点

介助ありの場合

・介助者がいても本館から対峰館を抜けて自在館方面に行くための支援は何もできない。

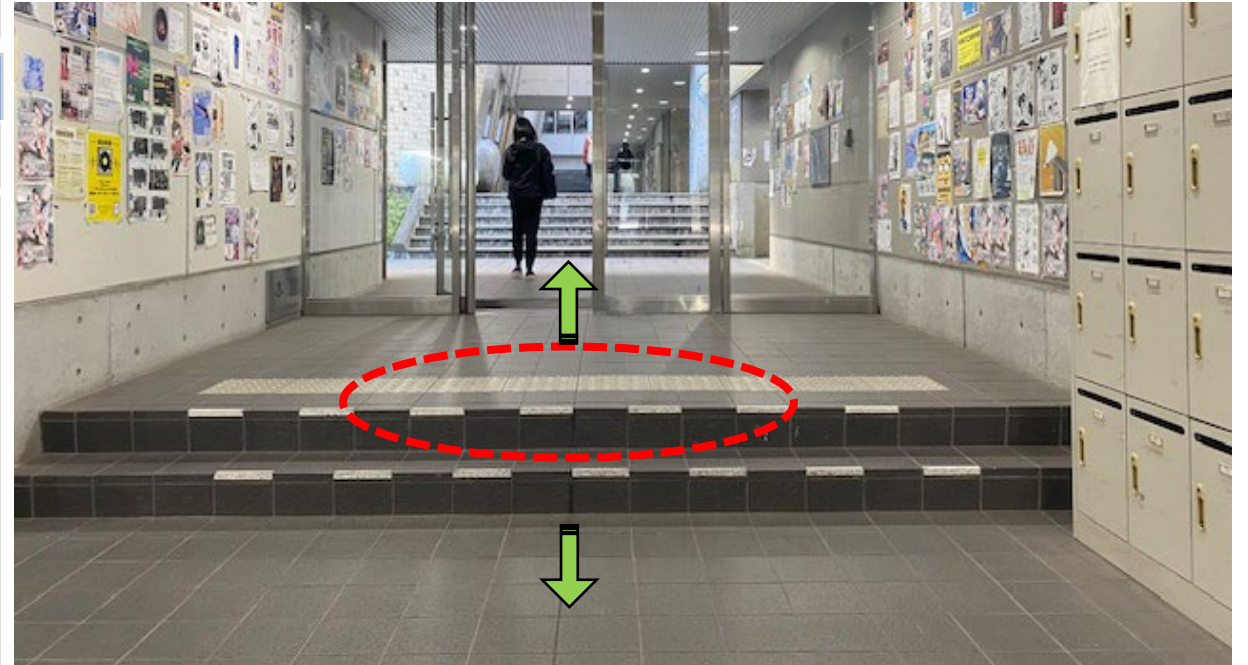
介助なしの場合

・動線上に階段しかないため、車椅子ユーザーが通行することはできない。
 ・荒天時でも外を通らねばならず、一定の交通量もあるため注意が必要である。

学生から出た改善のアイデア

・スロープの施工・設置について検討が必要である。

現地の写真



↓ 本学以外における施工事例 ↓



⑤-3

施設名称	本館2階 ICTサポートセンター
問題となる設備	センター室内

問題点

介助ありの場合

- ・特になし

介助なしの場合

- ・カウンターの高さが高いので、何かを読んだり書いたりすることは難しい。
- ・室内の通路は狭く、車椅子で移動することは難しい。

学生から出た改善のアイデア

- ・カウンターが使えない際の代替手段について検討する。
- ・そのために必要な物品の検討・購入など、環境整備を行う。

現地の写真



⑤-4

施設名称	本館1階・2階・4階 各部署（グループ）の執務室
問題となる設備	出入口扉

問題点

介助ありの場合

・扉の重量がかなり重いため、介助をしながら扉を操作することは難しい。

介助なしの場合

・片側開き扉が施工されている部屋が多かった。ストッパー機能はなし。
・扉の重量がかなり重いため、押す力が必要であり、車椅子ユーザーが自力で入室することは難しい。

学生から出た改善のアイデア

- ・特に学生の利用頻度が高い部屋については、扉を開放できそうなときにはできるだけ開放しておく。
- ・軽量でストッパー機能のある扉と交換する。

現地の写真



⑤-5

施設名称	本館1階・2階・4階 各部署（グループ）の執務室
問題となる設備	受付カウンター

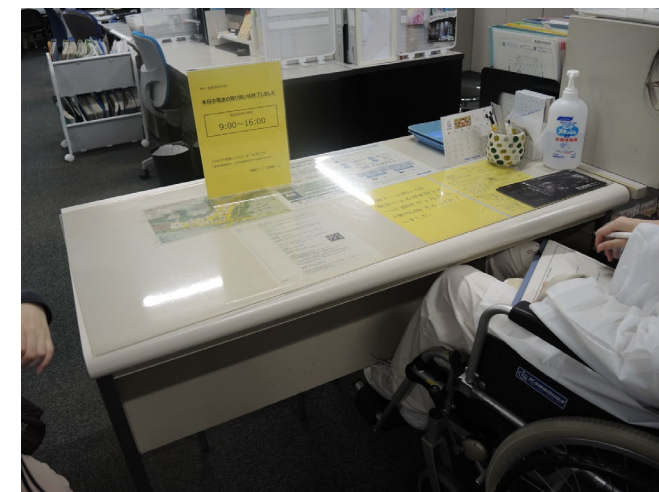
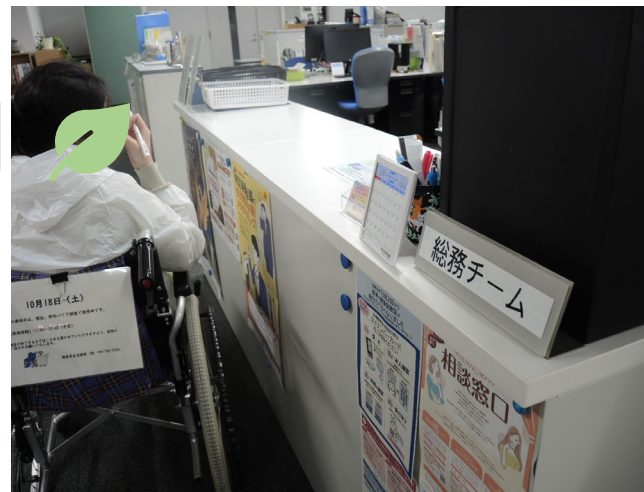
問題点

介助ありの場合	介助なしの場合
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	<ul style="list-style-type: none"> ・背の高いカウンター（現状、床から80～100cm）の上で何かを読んだり書いたりすることは難しい。 ・背の低いカウンターは、奥行きが狭く車椅子で奥まで入れないため、机に手が届きづらい。

学生から出た改善のアイデア

- ・カウンターが使えない際の代替手段について検討する。
- ・そのために必要な物品の検討・購入など、環境整備を行う。

現地の写真



⑤-6

施設名称	本館エントランス周辺 スクールバス乗降場
問題となる設備	待合スペース

問題点

介助ありの場合

- ・特になし

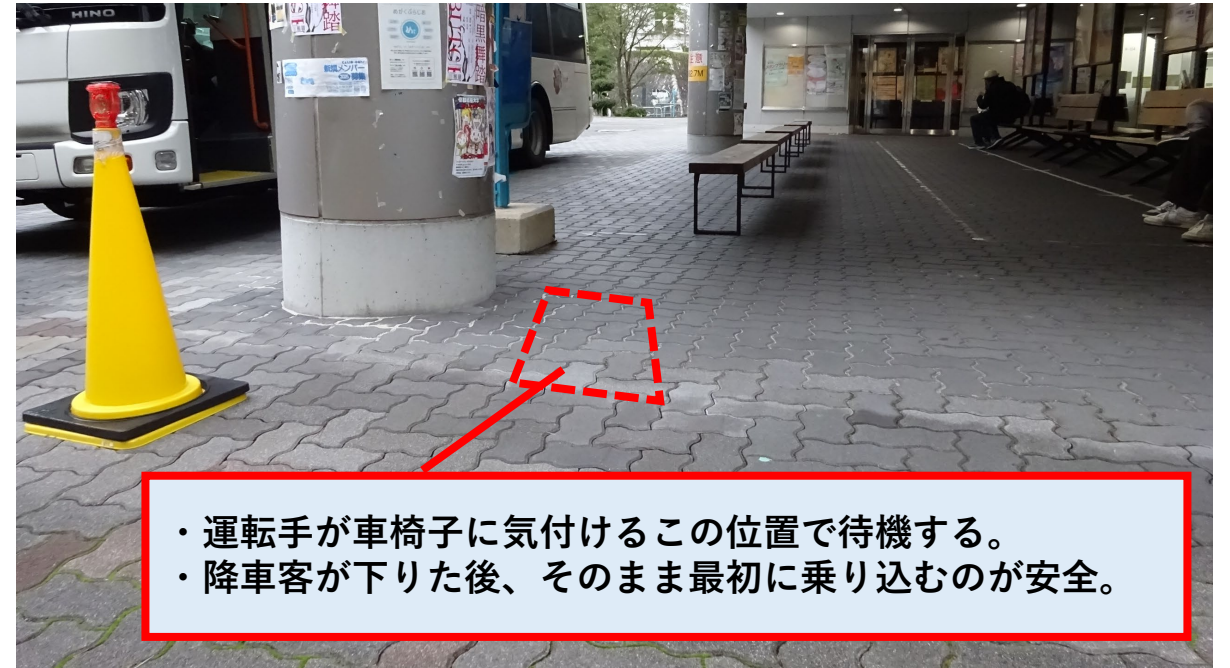
介助なしの場合

- ・バス待ちの人数や時間帯によっては、車椅子利用者がバスを待っていることに乗務員が気づかないことがある。
(人ごみに埋もれてしまう・暗い等の理由)
- ・一般客と同じタイミングで乗車をするのはあまり効率的ではない(車椅子専用席を空ける必要がある)。

学生から出た改善のアイデア

- ・国際会館からのバスが到着し、降車客が降りた直後、そのままの停車位置から最初に乗り込むのが安全である。

現地の写真



↓ 本学以外における施工事例 ↓



まとめ

- 今回の調査により、公共性の高い施設の中にも車椅子利用者のアクセシビリティ（アクセスできること）の障壁となるものがいくつもあることが明らかになった。
- 障害のある人の使用を想定しないで作られているものが多く、車椅子利用者には使えない（又は使いづらい）など、ユーザビリティ（使いやすさ）の面からも様々な課題があることが分かった。
- 障害のない人にとっては当たり前複数ある選択肢が、障害のある人にとっては利用できない、あるいは限られているために困難なことが発生しているという気付きを得た。
- 調査にあたった学生とともに、対応の優先順位が高いと思われる箇所等について話し合った内容を踏まえ、障害学生支援室においても検討を行った。すぐにでも改善できる箇所については随時対応しつつ、①建物や教室等の出入口扉の改善（扉の形状や重量がアクセスの妨げとなっている）、②危険箇所への対応（明窓館大ホール階段部分の足元照明）、③荒天時にも安全に移動できる通路の確保（本館⇄自在館）等については、可能な限り早期に対応すべく、担当部署において検討を図っていくことが望まれる。
- 立地環境にも鑑み、今後は災害時等を想定したアクセシビリティについての検討も必要である。